差異認め合える世界 ともに

対談する西本願寺の大谷光淳門主（左）と東本願寺の大谷暢裕門首。右は中井美穂さん（6日、京都市下京区の西本願寺・白書院で）

各人が煩悩を克服しようと努めることで一人ひとりの幸せが実現し、社会全体の安穏につながるというのが仏教が考える「平和」と言えます。お互いが欠陥のある不完全な人間と自覚すれば、共存の道がひらかれる可能性もあるのではないでしょうか。

暢裕門首 仏教の教えは、互いの差異（ちがい）を認め合える世界の発見を促しています。武力に頼ることなく、ともに生きあえる世界があることを、宗教者は強く発信し続けることが大切です。

国と国との争いを起こしているのは一人ひとりの人間です。人間としての「いたみ」、人間存在そのものに対する「かなしみ」の感覚を共に持つこと、宗教を通して人間の在り方や他者との関係性を各人の課題として問い返すことこそが世界平和への道筋であり、宗教の役割だと思います。

本当の宗教は全ての人の幸せ願うもの

〈新興とされる特定の宗教への過度な献金や、その信者の親に育てられた「2世」の問題が注目されている〉

中井さん 社会が宗教をみる目は必ずしも好意的と言えません。伝統宗教にも影響があるのでは。

暢裕門首 今起きている問題は、宗教そのものではなく、宗教団体や属する人間の行いの問題でしょう。宗教心それ自体は人間の本質的なもので、無宗教も一つの信仰です。必要、不必要という次元を超え、自分自身の在り方、自らの危うさを知らしめるものが本当の宗教と考えています。

光淳門主 宗教は、心を持つ人間が人間らしく生きていく上で非常に重要だと思います。現代人はメリットがあるかどうかで物事の重要性や必要性を判断しているように感じます。しかし、本当の宗教は、自己の功利性から、利他の社会性へと価値観を転換し、全ての人の幸せを願うものでしょう。

守るべきもの、変わるべきもの

〈地方寺院は疲弊し、無宗教葬や簡略化した葬儀も増えた。「宗教離れ」とも言われる〉

中井さん 実家は仏教ですが、冠婚葬祭で思い出すぐらい。仏教徒と言うのもお恥ずかしい。

光淳門主 家族や地域社会といった共同体の絆が強かった時代は、共同体と宗教は不可分でした。今はグローバル化や個人化が進み、宗教に積極的な意義を見いだせないのではないでしょうか。閉鎖的にみえる既存の宗教団体への拒否反応もあると思います。

今後は一人ひとりの宗教的要求に対し、わかりやすい言葉で丁寧に教えを伝えることが重要です。そうでなければ観光地としての寺院、博物館で鑑賞するだけの仏像という形でしか仏教は残らないという強い危機感があります。

暢裕門首 「宗教離れ」とは具体的に何から「離れ」ているのか。宗教か、お寺か、仏教か。はやり言葉に惑わされずに冷静に分析し、受け止める必要があります。次の世代のために守るべきもの、柔軟に変化すべきものを見極め、適切に対応しなければなりません。

人口減少で、このままでは教団の規模も縮小していくでしょう。浄土真宗が人類全体の課題に応えうることは、ブラジル育ちの身として確信しています。世界へ視野を広げ、あらゆる人に南無阿弥陀仏が伝わることを願っています。

人間の煩悩が引き起こした環境問題

〈地球温暖化や海洋汚染など環境問題は深刻さを増している〉

中井さん 宗教は環境問題に好影響をもたらしますか。

暢裕門首 浄土真宗では、仏の国土「浄土」への往生を課題とします。国土すなわち「土」の問題を探究すれば、私たちが生きている大地、環境を考えることにもつながります。仏教徒はもとより、生きとし生けるものがみな共に救われる世界を求めるのです。仏教が世に伝わることこそが問題への取り組みと受け止めています。

光淳門主 環境問題も人間の煩悩が引き起こしていると考えます。快適さを求める「貪り」と、一度手にした快楽から逃れられないという「愚かさ」の所産だと思います。宗教は、この人間の根源的な迷いを問題にしなければなりません。「少欲知足」という言葉があります。地球や他国の人々に負担をかけ、自分たちだけがいい生活をするのは問題です。

中井さん 今後に向けては。

光淳門主 親鸞聖人の教えが800年続いてきましたが、時代の変化の中で次世代にどう伝えるか。江戸時代に入るまで一つだった東西本願寺はお勤めなどの作法に違いはあっても同じ価値観を持っています。ともに社会に発信することは意義があると思います。

暢裕門首 今起きている様々な問題は、いずれも世界的で、人類全体の、人間そのものの危機と実感しています。宗教界も真剣に立ち上がり、ともに乗り越える道を考えなくてはなりません。何をなすべきか、手を取り合い、一緒に考えていきたいと思います。

分立から420年 相互参拝、交流進む

本願寺は、宗祖親鸞の京都の廟堂（墓所）を基に発展した。ひ孫の3代覚如が廟堂を寺院化し、8代蓮如が教団の礎を築いた。その後、大坂・石山本願寺へ移り、11代顕如の時に織田信長との約10年にわたる石山合戦が起きた。この講和を受け入れた顕如と、反対した長男・教如の対立が分立の遠因とされる。

講和を経て、顕如は1591年に豊臣秀吉から寺地を寄進された。これが現在の「西本願寺」となる。一方、教如は1602年に徳川家康から寺地の寄進を受けて独立。位置関係から「東本願寺」と呼ばれるようになった。

分立後、江戸時代に門主・門首の交流はなかったとされる。明治元年の1868年、宗教界の今後を課題に初めて会談したという記録がある。戦時中の1943年にも毎日新聞の企画で対談した。近年は、宗祖の遺徳をしのぶ「報恩講」での相互参拝、真宗10派で作る真宗教団連合の公式行事などで交流している。

東西本願寺は伽藍配置や儀式、作法に違いはあるが、根本的な教義は変わらない。

東・西本願寺で慶讃法要

◇浄土真宗本願寺派　本山の西本願寺は、正式には「龍谷山本願寺」という。全国に1万の寺院、770万人の門信徒を誇る。慶讃法要は29日～5月21日（5期30日間）。書院、飛雲閣の特別公開などもある。特に4月29日、5月6、7日には、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった人や若い世代に向けた協賛行事を行う。

◇真宗大谷派　本山の東本願寺は、正式には「真宗本廟」という。全国に8600の寺院、720万人の門信徒を誇る。慶讃法要は25日～4月29日（2期30日間）、阿弥陀堂と御影堂で初めて一体となって営まれる。親鸞の得度式で使われたと青蓮院に伝わる剃刀を初公開する。門前では市民緑地でのマルシェや渉成園のライトアップがある。

文・構成は西田大智、佐藤行彦、写真は河村道浩が担当しました。

宗祖親鸞聖人 御誕生 850th 立教開宗 800th
真宗大谷派（東本願寺）

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年

慶讃法要

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

法要期間
【第1期法要】2023年3月25日(土)～4月 8日(土)15日間
【第2期法要】2023年4月15日(土)～4月29日(土)15日間
【讃仰期間】2023年4月 9日(日)～4月14日(金) 6日間

慶讃法要 特設サイト
東本願寺 公式ホームページ

住所：京都市下京区烏丸通七条上る　電話：075-371-9181（代表）